



【写真展開催のお知らせ】

2014 年 3 月 吉日

報道関係者各位

世界で二例しかない、貴重な“巡礼の道”の世界遺産登録 10 周年を迎えて

「世界遺産のあるまち～田辺」by Jimmy Ming Shum

拝啓 時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。和歌山県田辺市は、2004 年に世界遺産に登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」が 10 周年を迎える本年、東京・渋谷ヒカリエ(東京都渋谷区渋谷 2-21-1)にて写真展「世界遺産のあるまち～田辺」を開催します。本写真展は「道が人をつなぎ、人が未来を創る」をコンセプトに、日本はじめ国際的に活躍する香港人フォトグラファー Jimmy Ming Shum を起用し、世界で二例しかない貴重な“巡礼の道”である熊野古道を始め、その地に生きる人、暮らし、味や仕事を切り取りました。そこには私達が気付かない、まちの顔やちいさな再発見が隠れていました。つきましては、下記日程にて写真展を開催いたしますので、貴媒体でのご紹介をご検討願えれば幸いです。

＜開催概要＞

- 名 称 : 「世界遺産のあるまち～田辺」by Jimmy Ming Shum
- 日 時 : 2014 年 4 月 15 日(火)～4 月 23 日(水) 11:00-20:00 (23 日のみ 11:00-16:00)  
※15 日は関係者内覧会、16 日から一般公開予定。最終日 23 日の入場は 15:30 まで。
- 会 場 : 渋谷ヒカリエ 8 階 CUBE 1,2,3(入場無料)
- 主 催 : 和歌山県田辺市 ■企 画 : 田辺市企画部企画広報課
- 後援(予定) : 一般社団法人 田辺市熊野ツーリズムビューロー
- 協力(予定) : Ambassadors of Design, Japan (AODJ)

\*本写真展及び写真ダウンロード、世界文化遺産の詳細は HP をご覧ください(3/1～)\*

[http://www.city.tanabe.lg.jp/kikaku/photo\\_exhibition.html](http://www.city.tanabe.lg.jp/kikaku/photo_exhibition.html)

\*フォトグラファー Jimmy Ming Shum 沈平林 (香港)略歴

サンフランシスコ・アート・インスティテュートで BFA を取得し、Pratt Institute New York に留学。その後香港に戻りフォトグラファーとしてテレビコマーシャルなどを制作。2003 年に香港ヘリテッジミュージアムまた 2004 年には清里フォトアートミュージアムに若手写真家の一人として作品が収蔵された。2005 年、米国の雑誌 Surface Magazine の“Avant Guardian Award”受賞。

Vogue や Men’s Uno 等のファッション雑誌を中心に活躍し、香港や台湾、中国では最も売れている写真家として、台北での個展なども開催している。近年は日本での活動も目覚ましく、2013 年に写真集「G 郷ひろみ」を台湾で撮り下ろすほか、松山ケンイチ、松田龍平、中村獅堂らの俳優の撮影なども手掛けている。



＜本件に関するお問合せ先＞

- \*取材/掲載に関するお問合せ 広報事務局(株式会社ジュンプロモーション内) 担当:川上  
TEL:03-3402-5136 FAX:03-3479-1246 E-mail:k-kawakami@junpro.co.jp
- \*田辺市に関するお問合せ 田辺市企画部企画広報課 担当:大久保、鍋屋  
TEL:0739-26-9963 FAX:0739-22-5310 E-mail:kikaku@city.tanabe.lg.jp



## 【参考資料】

### \* 写真展コンセプト:「道が人をつなぎ、人が未来を創る。」

日本のどの地方都市も、若い人たちが地元を離れ、まちも村も昔の元気を失いつつあります。地方のまちや村には自然も景観も産物も豊富にありますが、この大切な資産を消費するだけでなく、未来に大切に繋ぐのは、そこに生きる人たち、その人たちの元気です。

1000 年もの昔より、人々が来世を願い、再生を賭け、日本全国から熊野古道を歩いてこの地を訪れてきました。時を経て、この地を去る若者がいる一方で、この地の魅力にひかれて移り住む人々、訪れる人々がいて、まちには小さな新陳代謝がおきています。多様な文化や価値観を持った人々が、互いに作用しながら、多彩な価値を生み出し、まちをかたちづくと云えます。いにしえから続く世界遺産がある田辺の道を歩き、日本のまちや村がどうあるべきか、どこに向かっていくのかを考える旅の記録です。

### \* 田辺市とは

紀伊半島の南西側、和歌山県の南部に位置する田辺市は、平成 17 年 5 月 1 日、5 市町村が合併し、人口約 80,000 人、面積 1,026 km<sup>2</sup>と県全体の約 22% を占める近畿で最も広い市域を有します。田辺市は、先人たちの努力によって、古くから紀南地方の政治、経済、文化の中心地として栄え、今日では高速道路を核とする道路交通網の整備を始め、医療や福祉の分野においても重要な都市的基盤を多数有するなど、県下第二の都市として、さらには紀南の中核都市としての役割を担ってきております。

また、市域には、美しい海・山・川の大自然を始め、世界遺産に登録された「熊野古道」や「熊野本宮大社」に代表される古い歴史や文化、日本三美人の湯として知られる「龍神温泉」や日本最古の湯といわれる「湯の峰温泉」などの温泉郷、温暖な気候と風土の賜物である梅・みかん、紀州備長炭などの特産物など、人々の心と身体を癒す豊かな自然環境や、多彩で魅力的な地域資源を数多く有しております。

### \* 世界遺産登録 10 周年

「紀伊山地の霊場と参詣道」が平成 16 年 7 月、ユネスコ世界文化遺産に登録され、今年で 10 周年を迎えます。「紀伊山地の霊場と参詣道」は、紀伊山地の自然がなければ成立しなかった「山岳霊場」と「参詣道」、及びそれを取り巻く山、川、滝、温泉、田園、町並みなど、自然と人間の営みが長い時間をかけて形成してきた「文化的景観」が大きく評価されたものです。また、世界文化遺産の多くは遺跡や建物である中、「巡礼道」として登録されている異例なものであり、キリスト教徒の聖地である「サンティアゴへの巡礼道」と世界に 2 例しかない、貴重な「巡礼道」なのです。

### \* 熊野古道

平安時代から江戸時代にかけて、熊野三山の信仰が高まり、上皇や庶民に至るまで、旅人の切れ目がなく行列ができた様子から「蟻の熊野詣」と例えられるほど多くの人々が熊野に参詣しました。熊野古道にはいくつかのルートがあり、多くの旅人が歩いたのは、京都から大阪・和歌山を経て田辺に至る「紀伊路」、そして田辺から山中に分け入り熊野本宮に向かう「中辺路」。そのほか、田辺から海岸線沿いに那智・新宮へ向かう「大辺路」、高野山から熊野へ向かう「小辺路」、伊勢と熊野を結ぶ「伊勢路」、吉野・大峯と熊野本宮をつなぐ山岳修験道「大峯奥駈道」などがあげられます。田辺は中辺路と大辺路の分岐点にあたり、中辺路ルートの大部分が田辺市にあります。

田辺から熊野本宮に向かう中辺路、田辺から海岸線沿いに那智・新宮へ向かう大辺路、高野山から熊野へ向かう小辺路が、「熊野参詣道」として世界遺産に登録されています。